

2024 年度 琉球大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは琉球大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、また以下の表記載の施設を研修連携施設、研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

研修連携施設

1. 沖縄赤十字病院	2. 豊見城中央病院
3. 那覇市立病院	4. 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
5. 国立療養所沖縄愛楽園	6. 北部地区医師会病院
7. 京都大学医学部附属病院	8. 京都医療センター
9. 洛和会音羽病院	10. 大阪府済生会野江病院
11. 京都社会事業財団京都桂病院	12. 田附興風会医学研究所北野病院
13. 医療法人医仁会武田総合病院	14. 大阪府済生会中津病院
15. 十条武田リハビリテーション病院	16. 高槻赤十字病院
17. 大津赤十字病院	18. 長浜赤十字病院
19. 兵庫県立尼崎総合医療センター	20. 宇治武田病院
21. 日本赤十字社和歌山医療センター	22. 滋賀県立総合病院
23. JCHO 星ヶ丘医療センター	24. 神戸大学附属病院
25. 近畿大学病院	

研修準連携施設

1. 沖縄県立宮古病院	2. 国立療養所宮古南静園
3. 北山武田病院	4. 公立豊岡病院
5. 京都きづ川クリニック	6. 赤穂市民病院
7. 医療法人財団康生会 武田病院	8. 宇治徳洲会病院
9. 関西電力病院	10. 福井赤十字病院
11. 洛西ニュータウン病院	12. 三菱京都病院
13. 国家公務員共済組合連合会枚方公済病院	

C. 研修体制：

研修基幹施設：琉球大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：高橋 健造（診療科長）

専門領域：角化症、乾癬、膠原病、皮膚科一般

指導医：山口さやか 専門領域：皮膚科一般、皮膚感染症、ハンセン病

指導医：林 健太郎 専門領域：皮膚科一般、皮膚腫瘍、皮膚外科手術

指導医：内海大介 専門領域：皮膚科一般、遺伝性皮膚疾患

指導医：宮城拓也 専門領域：皮膚科一般、アレルギー、膠原病

指導医：野中公子 専門領域：皮膚科一般、皮膚腫瘍

指導医：大嶺卓也 専門領域：皮膚科一般

指導医：與那嶺周平 専門領域：皮膚科一般

指導医：岩元凜々子 専門領域：皮膚科一般

施設特徴：

専門外来として、皮膚膠原病外来、乾癬外来、皮膚腫瘍外来、皮膚感染症外来、アレルギー外来、白斑外来を設けており、外来患者数は1日平均150名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は400症例を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。沖縄県内の皮膚疾患全般の最終診断、治療を行っており、外来手術を除いた年間入院手術件数は、約250症例にのぼる。

以下、研修連携施設を記す。

研修連携施設1：沖縄赤十字病院皮膚科

所在地：沖縄県那覇市与儀1丁目3番1号

プログラム連携施設担当者（指導医）：上原絵里子（診療科長）

研修連携施設 2：豊見城中央病院皮膚科

所在地：沖縄県豊見城市字上田 25

プログラム連携施設担当者（指導医）：安村 涼（診療科長）

研修連携施設 3：那覇市立病院皮膚科

所在地：沖縄県那覇市古島 2 丁目 31 番地 1

プログラム連携施設担当者（指導医）：栗澤 剛（診療科長）

研修連携施設 4：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター皮膚科

所在地：沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1

プログラム連携担当者（指導医）：屋宜 宣武（診療科長）

研修連携施設 5：国立療養所 沖縄愛楽園 皮膚科

所在地：沖縄県名護市済井出 1192 番地

プログラム連携担当者（指導医）：大平 葵

研究連携施設 6：北部地区医師会病院

所在地：沖縄県名護市字宇茂佐 1712 - 3

プログラム連携担当者（指導医）：佐久川裕行

研修連携施設 7：京都大学医学部附属病院

所在地：京都市左京区聖護院川原町 54 番地

プログラム連携担当者（指導医）：椛島健治

研修連携施設 8：独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

所在地：京都市伏見区深草向畑町 1-1

プログラム連携担当者（指導医）：十一 英子

研修連携施設 9：洛和会音羽病院皮膚科

所在地：京都府京都市山科区音羽珍事町 2

プログラム連携施設担当者（指導医）：清水平ちひろ（診療部長）

研修連携施設 10：社会福祉法人恩師財団大阪府済生会野江病院

所在地：大阪市城東区今福 1 丁目 3 番 25 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：櫻井弓子（医長）

研修連携施設 11：社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院皮膚科

所在地：京都府京都市西京区山田平尾町 17

プログラム連携施設担当者（指導医）：石川牧子（診療部長）

研修連携施設 12：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院皮膚科

所在地：大阪市北区扇町 2 丁目 4 番 20 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉川義顯（皮膚科主任部長）

研修連携施設 13：医療法人 医仁会 武田総合病院皮膚科

所在地：京都市伏見区石田森南町 28 番地 1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松井美萌（診療部長）

研修連携施設 14：大阪府済生会中津病院

所在地：大阪市北区芝田 2-10-39

プログラム連携施設担当者（指導医）：荒井利恵（診療部長）

研修連携施設 15：十条武田リハビリテーション病院

所在地：京都市南区吉祥院八反田町 32

プログラム連携施設担当者（指導医）：米田耕造

研修連携施設 16：高槻赤十字病院

所在地：大阪府高槻市阿武野 1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：古川福実

研修連携施設 17：大津赤十字病院皮膚科

所在地：滋賀県大津市長等 1 丁目 1-35

プログラム連携施設担当者（指導医）：笹橋真紀子（医長）

研修連携施設 18：長浜赤十字病院

所在地：滋賀県長浜市宮前町 14-7

プログラム連携施設担当者（指導医）：川端 紀子（診療部長）

研修連携施設 19：兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科

所在地：兵庫県尼崎市東難波町二丁目 17 番 77 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：工藤 比等志（皮膚科科長）

指導医：湊 はる香

研修連携施設 20：宇治武田病院

所在地：京都府宇治市宇治里尻 36-26

プログラム連携施設担当者（指導医）：小畠綾子（部長）

研修連携施設 21：日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科

所在地：和歌山県和歌山市小松原通 4-20

プログラム連携施設担当者（指導医）：辻岡 馨（皮膚科部長）

研修連携施設 22：滋賀県立総合病院

所在地：〒524-8524 滋賀県守山市守山 5 丁目 4 番 30 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：中川 雄仁（診療部長）

研修連携施設 23：JCHO 星ヶ丘医療センター皮膚科

所在地：〒573-8511 大阪府枚方市星丘 4-8-1

プログラム連携施設担当者（指導者）：立花隆夫（皮膚科部長）

研修連携施設 24：神戸大学医学部附属病院

所在地：神戸市中央区楠町 7 丁目 5 番地 2 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：久保 亮治

研修連携施設 25：近畿大学病院皮膚科

所在地：〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

プログラム連携担当者（指導医）：大塚篤司（診療科長）

以下、研修準連携施設を記す

研修準連携施設 1：沖縄県立宮古病院

所在地：沖縄県宮古島市平良字下里 427-1

研修準連携施設 2：国立療養所宮古南静園

所在地：沖縄県宮古島市平良字島尻 8 8 8

研修準連携施設 3：北山武田病院

所在地：京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町 99 番地

研修準連携施設 4：公立豊岡病院皮膚科

所在地：兵庫県豊岡市戸牧 1 0 9 4

研修準連携施設 5：京都きづ川病院

所在地：京都府城陽市平川西六反 2 6 - 1

研修準連携施設 6：赤穂市民病院

所在地：兵庫県赤穂市中広 1090 番地

研修準連携施設 7：医療法人財団康生会 武田病院

所在地：京都府京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町 841-5

研修準連携施設 8：宇治徳洲会病院

所在地：京都府宇治市槇島町石橋 145 番

研修準連携施設 9：関西電力病院

所在地：大阪市福島区福島 2 - 1 - 7

研修準連携施設 10：福井赤十字病院

所在地：福井県福井市月見町 2 - 4 - 1

研修準連携施設 11：洛西ニュータウン病院

所在地：京都府京都市西京区大枝東新林町 3 丁目 6 番地

研修準連携施設 12：三菱京都病院

所在地：京都市西京区桂御所町 1

研修準連携施設 13：国家公務員共済組合連合会枚方公済病院皮膚科

所在地：大阪府枚方市藤阪東町 1-2-1

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医

は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

委員長：高橋健造（琉球大学病院皮膚科 教授）

委 員：山口さやか（琉球大学皮膚科 講師）

内海大介（琉球大学病院皮膚科 助教）

宮城拓也（琉球大学病院皮膚科 助教）

林 健太郎（琉球大学病院皮膚科 助教）

上原絵里子（沖縄赤十字病院皮膚科 科長）

安村 涼（豊見城中央病院皮膚科 科長）

栗澤 剛（那覇市立病院皮膚科 科長）

屋宜 宣武（南部医療センター・こども医療センター皮膚科 科長）

大平 葵（国立療養所 沖縄愛楽園 皮膚科）

佐久川裕行（北部地区医師会病院皮膚科）

當間 末美（琉球大学医学部附属病院看護部外来副看護師長）

根保 愛（琉球大学医学部附属病院看護部病棟看護師長）

平良智恵美（琉球大学医学部附属病院看護部褥瘡対策室看護師長）

梶島 健治（京都大学医学部附属病院）

十一 英子（独立行政法人国立病院機構 京都医療センター）

清水 ちひろ（洛和会音羽病院皮膚科）

櫻井 弓子（済生会野江病院皮膚科部長）

石川 牧子（社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院皮膚科）

吉川 義顯（北野病院皮膚科部長）

松井 美萌（医仁会武田総合病院皮膚科）

荒井 利恵（大阪府済生会中津病院）

米田耕造（十条武田リハビリテーション病院）

古川 福実（高槻赤十字病院）

笹橋真紀子（大津赤十字病院皮膚科部長）

川端 紀子（長浜赤十字病院）

工藤 比等志（兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科部長）

小畠 綾子（宇治武田病院皮膚科）

米井 希 （日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科）

中川 雄仁（滋賀県立総合病院皮膚科）

立花 隆夫（星ヶ丘医療センター・皮膚科）

久保 亮治（神戸大学医学部附属病院）

大塚 篤司（近畿大学病院）

前年度診療実績：

	1 日平均 外来患者数	1 日平均 入院患者数	局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年間 手術数	指導 医数
琉球大学病院	104. 2	11. 0	684	8	9
沖縄赤十字病院	26. 9	2. 3	182	2	2
豊見城中央病院	40. 8	8. 1	426	0	1
那覇市立病院	38. 84	5. 07	247	29	1
県立南部医療センター・ こども医療センター	28. 5	2. 3	262	14	1
国立療養所愛楽園	20	0	10	0	3
北部地区医師会病院	27	3. 8	144	3	1
京都大学附属病院	107. 5	16. 4	208	98	10
京都医療センター	56. 2	3. 1	256	0	1
洛和会音羽病院	45. 8	0. 2	170	0	2
野江病院	36. 3	1. 9	194	0	1
京都桂病院	31. 5	2. 3	186	0	1
北野病院	55	3	408	0	3
医仁会武田総合病院	55	4	264	2	2
中津病院	60	1	327	0	1
十条武田	14	1. 8	38	0	1
高槻赤十字病院	36. 3	1. 6	153	0	2
大津赤十字病院	45. 4	2. 2	148	0	1
長浜赤十字病院	39. 1	2. 5	298	0	1
尼崎総合医療センター	55. 3	4. 4	451	0	2
宇治武田病院	39. 7	0. 6	120	0	1
和歌山医療センター	55	3. 8	419	0	2
滋賀県立総合病院	21. 3	1. 2	265	0	1
星ヶ丘医療	34	3. 6	130	17	1
神戸大学医学部付属病院	109. 7	15. 3	862	74	7
近畿大学病院	112	17	434	47	4
合 計	1295. 34	118. 47	7286	294	62

D. 募集定員： 7 人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，小論文および面接により決定（琉球大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、琉球大学皮膚科医局へ問い合わせ、履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

琉球大学病院 皮膚科医局

TEL：098-895-1153

FAX：098-895-1417

hihuka@jim.u-ryukyu.ac.jp

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 研修基幹施設である琉球大学病院皮膚科では、医学一般の基本的知識技術を習得させた後、皮膚の生理や機能の理解の元、難治性疾患、悪性腫瘍、稀な皮膚疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。皮膚病理診断の学習とともに、生物学的製剤の使用法等も習得する。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。

2. 研修連携施設である沖縄赤十字病院皮膚科、豊見城中央病院、那覇市立病院皮膚科、県立南部医療センター・こども医療センター、国立療養所沖縄愛楽園、北部地区医師会病院、京都大学医学部附属病院、京都医療センター、洛和会音羽病院、大阪府済生会野江病院、京都社会事業財団京都桂病院、田附興風会医学研究所北野病院、医療法人医仁会武田総合病院、大阪府済生会中津病院、十条武田リハビリテーション病院、高槻赤十字病院、大津赤十字病院、長浜赤十字病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、宇治武田病院、日本赤十字社和歌山医療センター、滋賀県立総合病院、JCHO 星ヶ丘医療センター、神戸大学附属病院 などでは、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。沖縄赤十字病院では、主に皮膚良性腫瘍に対する手術療法を習得する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

3. 準連携施設である国立療養所宮古南静園、沖縄県立宮古病院、北山武田病院、公立豊岡病院、京都きつ川病院、赤穂市民病院、康生会武田病院、宇治徳洲会病院、関西電力病院、福井赤十字病院、洛西ニュータウン病院、三菱京都病院、国家公務員共済組合連合会枚方公済病院、では、上級指導医のもと、最長1年間の研修を行う研修コースを用意する。医員として研修する専攻医は、前者は琉球大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	準連携
c	連携	連携	基幹	基幹	準連携
d	基幹	連携	連携	準連携	基幹

e	基幹	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
f	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

- a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとに異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。
- b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c：研修連携施設から研修を開始するコース。
- d：研修4年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。
- e：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- f：専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) 琉球大学医学部皮膚科

外来：

診察医に陪席し、外来診察、外来での皮膚科処置、皮膚科病理検査、光学治療を経験する。

病棟：

病棟医長や指導医のもと、大きく皮膚外科と皮膚膠原病、アレルギーの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の外来患者カンファレンス、病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では、定期的に英文論文を紹介する。研修段階に準じ、臨床論分、基礎研究論文、メタ解析論分などを理解した上で紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に3回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚

科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	病棟 中央手術 カンファレンス	外来	外来 手術		
午後	病棟回診 外来・ 病理 カンファレンス	病棟	病棟 手術	病棟	病棟 手術		

2) 連携施設

沖縄赤十字病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟 外来	宿直※	

※ 宿直は1回／月を予定

豊見城中央病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，

手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来		

那覇市立病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来 手術	病棟	外来		
午後	病棟 手術	外来 カンファレンス	病棟 カンファレンス	外来	病棟 手術		

南部医療センター・こども医療センター 皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で

論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 カンファレンス	外来	病棟 カンファレンス	外来	病棟 手術		

国立療養所沖縄愛楽園

指導医の下、沖縄県北部地域の中核病院の勤務医として、急性期から慢性の皮膚疾患への対処や手術法を習得する。特に当該施設はハンセン病の療養施設であり、高齢化した 100 名以上の元ハンセン病患者が居住する。このため難治性足潰瘍などの創傷処置に関し、外科的、内科的対処を多数例経験し、対処法を取得する。毎週月曜日には琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週 1 回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 施設内 の回診	外来	外来 施設内 の回診	外来	外来 施設内 の回診		
午後	カンファレンス	院内処 置	院内処 置	院内処 置	手術		

北部地区医師会病院皮膚科

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに

積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来		

京都大学医学部附属病院皮膚科

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理	病棟 カンファレンス 回診	病棟 手術	病棟 手術		

京都医療センター：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法や、皮膚科医として必要な診断力と診療技術を習得する。カンファレンスで症例検討を行い、症例についての理解を深める。生検症例はすべて病理カンファレンスで直接所見をよむ。複数科で診療する症例は、他科との合

同カンファレンスで治療方針を検討し、チーム医療を学ぶ。褥瘡回診に参加し、褥瘡対策を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行い、論文を執筆する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 午後 前半	外来 生検、処 置	外来 生検、処 置	外来 手術	外来 生検、処 置	外来 生検、処 置		
午後 後半	病棟 回診 合同カンファ レンス*	病棟 カンファレンス	病棟 褥瘡回診 カンファレンス	病棟 病理カンファ レンス	病棟 回診 カンファレンス	当直※	

*糖尿病足病変カンファレンス、皮膚形成カンファレンスを各1回／月

※当直は2回／月を予定

洛和会音羽病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 カンファレンス	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術	病棟	宿直※	

※宿直は2回／月を予定

大阪府済生会野江病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科臨床、処

置、手術法を習得する。他科との院内連携として院内褥瘡回診勉強会に毎週参加する。病院が実施する医療安全講習会や感染対策講習会に定期的に参加する。地域医療の勉強会を熱心に行っており、紹介患者の経過報告や連携患者の対策など地域連携を学ぶ会合に積極的に参加する。また、皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 褥瘡回診	病棟 生検	病棟 手術 カンファレンス	病棟 外来処置	病棟 外来処置		

※宿直は現在のところ皮膚科医は免除されている

土日は週休2日であるが、国民の祝日は開院しており通常業務を行う。

京都桂病院皮膚科：

指導医の下、市中病院の勤務医として、外来/病棟診療、処置、手術法を習得する。病理医とのカンファレンスは月1回程度あり、症例検討を行いながら学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心 褥瘡回診	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心		カンファレンス※

※病理カンファレンス 1回/月を予定

毎朝夕に皮膚科入院患者の回診

北野病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。院内皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来 手術	外来	外来 (月2回)	
午後	病棟	病棟	病棟 手術 回診	病棟 カンファ レン ス	病棟 外来	宿直※	

※宿直は3回／月を予定（宿直は不定曜日であるが、その翌日は外来を行わないことを原則としている。）

医仁会武田総合病院皮膚科：

指導医のもと、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、創傷カンファレンス（形成外科医。循環器内科医、WOC認定看護師などと開催）を通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会（医療安全、褥瘡委員会等）では、大学教官等に来院いただいており、知識のブラッシュアップを図ることが可能である。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟対診 処置・手術・紫外	病棟対診 処置・手術・紫外	病棟対診	病棟対診 処置・手術・紫外	病棟対診 処置・手術・紫外	病棟対診

	線治療	線治療		線治療	線治療	
午後	院内カンファレンス・会議	創傷カンファレンス	アトピー・スキンケア外来	臨床カンファレンス	褥瘡回診	

大阪府済生会中津病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟処置	病棟処置	病棟処置	病棟処置	病棟処置		

当直：救急（外科）当直 1回／月程度の予定

十条武田リハビリテーション病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来		外来	外来	外来	外来	
午後	病棟手術	病棟	病棟 カンファレンス	病棟	病棟手術		

高槻赤十字病院：

外来患者数は40～50人。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、帯状疱疹、蜂窩織

炎、白癬などの感染性皮膚疾患、円形脱毛症、陥入爪など皮膚付属器疾患、また、褥瘡、足潰瘍、皮膚腫瘍、化学療法による皮膚障害などの診療を行っている。地域の最終病院としての自覚を持ち、どんな皮膚疾患にも、積極的に対応している。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 褥瘡外来	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 カンファレンス ※	宿直※	

※宿直は 1、2 回／月を予定

※金曜日 PM のカンファレンスは大阪医科大皮膚科カンファレンスに参加(1、2 回/月)

大津赤十字病院皮膚科：

指導医のもとで、地域医療の中核病院の勤務医として第一線の救急医療、処置、手術などを習得する。カンファレンス、抄読会を週 1 回行い皮膚科学全般にわたり学習する。さらに病理部との合同カンファレンスを週 1 回、形成外科との合同カンファレンスを月 1 回行うことで病理診断や手術症例についても各専門医の指導のもとで学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文を年に 1 編以上発表する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーには積極的に参加し、病院が実施する医療安全講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 褥瘡回診	病棟 カンファレンス	宿直※	宿直※

※宿直は 1 回／月を予定

長浜赤十字病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。週 1 回のカンファレンスおよび月 1 回の近隣の皮膚科とのカンファレンスに参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	処置	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術		

※病棟管理当直 3～4 回／月あり

兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科：

指導医の下、週に 3 回の午前中外来を担当し、3 名程度の入院患者を主治医として受け持つ。診療科として重点を置いている重症、難治例だけでなく、通常の皮膚疾患を含めた幅広い症例に対応できる能力を習得できるようにする。年に 2 回以上学会発表を行うとともに、発表内容をもとに論文を執筆する。週 1 回のカンファレンスおよび皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術	病棟	病棟		

※宿直は 1-2 回／月を予定

宇治武田病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科医療、処置

手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 1 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	(外来)	外来	外来	(外来)	外来		
午後	病棟	病棟	病棟 カンファ レンス 抄読会	病棟	病棟		

午前外来は月火水金または月火木金の週 4 コマ診療担当となる。

日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科：

地域医療の中核病院の勤務医として、まず電子カルテシステムに習熟し、皮膚科外来診療のエッセンスを会得し、入院診療では代表的皮膚疾患の標準的治療法等を習得する。また診療の補助的業務をこなす中で、各種処置法、手技を身につける。週 1 回の臨床カンファレンスに参加し、肉眼所見、病理組織所見のとらえ方を学ぶ。月 1 から 2 回の最新英文論文の抄読会で学習成果を発表する。褥瘡回診や褥瘡カンファレンスを通してチーム医療に関与する。日本皮膚科学会主催の必須講習会を年 1 回受講し、年に 2 回程度筆頭演者として学会発表を行う。年 1 篇の症例報告論文を執筆する。レセプトチェックを通して保険診療の要点を理解する。近隣で行われる皮膚科関連学会、学術講演会、セミナーなどに積極的に参加して最新の知識を身につけるとともに、顔の見える形での病診連携を実践する。病院内で実施される医療安全講習会、院内感染対策研修会、医療倫理研修会などに積極的に出席する。地域で開催される緩和ケア講習会にも参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 褥瘡カン ファレンス	病棟	病棟 カンファレンス	病棟		

※初療室の日当直は月 2 回程度割り当てられ、オンコール当番を月 10-15 日ぐらい務める。

滋賀県立総合病院：

地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟 回診カンファ	病棟	病棟	病棟 病理カンファ	病棟		

JCHO 星ヶ丘医療センター：

指導医の下、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、褥瘡カンファレンスなどを通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会では知識のブラッシュアップが可能である。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟 回診カンファ	病棟	病棟	病棟 病理カンファ	病棟		

神戸大学医学部附属病院皮膚科

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 手術	外来	外来		
午後	病棟	病棟 カンファレンス 回診 病理	病棟 手術	病棟	病棟		

近畿大学病院皮膚科：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	回診	外来	外来		

		手術			手術		
午後	病棟 外来	病棟 病理	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟	宿直※	

※宿直は1回／月を予定

3) 大学院(臨床)

基本的に午前中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで臨床の研修し、午後は大学院講義出席、基礎研究、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の基礎教室や、他大学の研究施設において皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

国立療養所宮古南静園、沖縄県立宮古病院には現在、皮膚科指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間以下に限り、上級医師の元、医員として診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の研修連携施設(沖縄赤十字病院・那覇市立病院)に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟	外来	病棟	外来	病棟 手術		

北山武田病院：

北山武田病院は、現在指導医は不在であるが、美容治療を推進している特徴を活かして研修を行う。研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科および美容皮膚科の外来診療・施術が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

公立豊岡病院：

地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

きづ川病院：

きづ川病院では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に 1 年間に限り、1 人での診療を行うことがある。また、大学病院や、手術を必要とする患者を希望に応じて近隣の形成外科を有する施設（宇治徳洲会病院、宇治武田病院）に紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

赤穂市民病院：

研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科の外来診療が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

康生会武田病院：

研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科の外来診療が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

宇治徳洲会病院：

市中病院の勤務医として、外来/病棟診療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

関西電力病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

福井赤十字病院

指導医の下、福井県の基幹病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、悪性皮膚腫瘍の手術、膠原病を含めたあらゆる皮膚疾患を経験する。乾癬に対して生物学的製剤の導入を積極的に施行し、福井県の医療に貢献する。またアザ、シミに対しての最新式の Q スイッチルビーレーザーによる美容皮膚科の研修も経験する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

洛西ニュータウン病院

外来/病棟診療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

三菱京都病院

地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科外来診療のエッセンスを会得し、入院診療では代表的皮膚疾患の標準的治療法等を習得する。また診療の補助的業務をこなす中で、各種処置法、手技を身につける。週 1 回の臨床カンファレンスに参加し、肉眼所見、病理組織所見のとらえ方を学ぶ。月 1-2 回の最新英文論文の抄読会で学習成果を発表する。褥瘡回診や褥瘡カンファレンスを通してチーム医療に関与する。日本皮膚科学会主催の必須講習会を年 1 回受講し、年に 2 回程度筆頭演者として学会発表を行う。年 1 篇の症例報告論文を執筆する。レセプトチェックを通して保険診療の要点を理解する。近隣で行われる皮膚科関連学会、学術講演会、セミナーなどに積極的に参加して最新の知識を身につけるとともに、顔の見える形での病診連携を実践する。病院内で実施される医療安全講習会、院内感染対策研修会、医療倫理研修会などに積極的に出席する。地域で開催される緩和ケア講習会にも参加する。

枚方公済病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	皮膚悪性腫瘍学会
6	日本皮膚科学会総会
7	南九州4県合同皮膚科地方会
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施 沖縄県皮膚科地方会
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	皮膚アレルギー学会
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う (開催時期は年度によって異なる) 沖縄県皮膚科地方会 研究皮膚科学会
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。 沖縄県皮膚科地方会
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1, 2 年目：主に琉球大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
- 3 年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
- 4, 5 年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。
3 年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して

診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形で研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、沖縄県皮膚科地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを手し、診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。

経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」の A. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年 3 月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。

3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大 6 ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある生じた場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 2～3 回/月程度である。

2023 年 4 月 15 日
琉球大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
高橋 健造